

大杉谷国有林からの手紙

61 通目 ～大杉谷の初夏～

2024年6月

梅雨入りも目前に迫り、大杉谷の広葉樹林ではエゾハルゼミの鳴き声がよく響く季節となりました。今年度初めてとなる今回は、4月に実施されました大杉谷登山歩道合同パトロールの様子と今年度の事業についてご紹介します。

●大杉谷登山歩道合同パトロール

大杉峡谷の山開きに先立ち、4月15日から16日の2日間の日程で、大杉谷登山歩道の安全点検及び整備を目的に大台町・三重県・警察・消防・環境省や三重森林管理署からの参加者により、大杉谷登山歩道合同パトロールが実施されました。

大杉峡谷は黒部峡谷や清津峡と並ぶ日本三大峡谷の1つに数えられ、登山歩道はエメラルドグリーンの沢と雄大な滝を眺めながら歩くことのできる日本屈指の峡谷コースとなっており、全長約14km、高低差約1400mの中級登山道となっています。

閉山期に足場や吊り橋のアンカーに溜まった落ち葉や枝を掃除したり、浮石の処理や落石の除去をしながら登山歩道を進みます。また、万が一、遭難事故が発生した場合には、迅速な救助活動が求められることから、遭難事故発生時のピックアップポイントの確認や情報交換も行いました。

1日目は晴天に恵まれ、日差しも暑すぎず登山日和となりました。約7時間かけて桃の木山の家まで歩きました。2日目はあいにくの雨天となりましたが小雨程度であり、火照った体には心地の良い冷たさでした。桃の木山の家から日出ヶ岳山頂まで約8時間かけて登りました。



写真1 合同パトロールの様子



写真2 あお 碧く美しい宮川



写真3 シシ淵

大杉谷登山歩道7つの滝と11本の吊り橋を越え、原生林の森を抜けて大台ヶ原に至る見どころの多いルートです。しかし、登山歩道（特に宮川沿い）はアップダウンが激しく急峻な断崖に付いており狭く危険であるので、十分な装備と慎重な行動が要求されます。岩場は雨で濡れるとかなり滑りやすくなるため、注意が必要です。事実、毎年岩場から転落する事故が数件発生しています。自身の体力と技量に合った行程を選択し、安全第一で臨んでください。

●大杉谷国有林での令和6年度の事業

今年度の森林整備事業では、森林の再生を目的とした森林整備事業として、植生の回復を補助するため未立木地への地域性苗木（大杉谷国有林に自生する樹木から種子を採取し育てた苗木）の植栽やニホンジカから植生を保護する柵の設置を予定しております。これまで設置した植生保護柵の点検・維持についても継続して行っています。

また、森林を荒廃させないためにニホンジカの捕獲を環境省と連携し行っています。



写真4 植生保護柵設置の様子

●森の生き物紹介

林道沿いでニホンカモシカに出会いました！シカは出会うと一目散に逃げるのですが、カモシカの場合は立ち止まってじっと見つめてきます。

ニホンカモシカは偶蹄（ぐうてい）目（ウシ目）ウシ科の日本固有種で、本州、四国、九州に生息しています。氷河時代からの遺存種^{*}で、進化の過程を研究するうえで極めて貴重な動物で1955年に国の特別天然記念物に指定されています。ヤギほどの大きさで背面の毛は一般には黒褐色ですが、灰白色味の強いものなど個体により変化があります。角は枝分かれの無い一本角で、基部の方にみられるリング状のしわの数により、年齢を推定できます。三重県では鈴鹿山系と三峰、台高、紀州の山地に生息します。

カモシカは人を襲うことはない動物ですが、パニックを起こすと突進する場合があります。

カモシカに出会ったときは、大きな声を出したり必要以上に近づいたりせず、刺激しないようにしましょう。



写真5 岩場から我々を見下ろすカモシカ

※遺存種（いそんしゅ、いぞんしゅ）とは、かつては繁栄し広く生息・分布していた生物がその後の環境の変化などで衰退、生息・分布を縮小し現在では限られた場所にのみ残っているもののことです。

編集：三重森林管理署 尾鷲森林事務所 係員
発行：三重森林管理署 尾鷲森林事務所 地域統括森林官